

2023年度事業報告

こじか「子どもの家」発達支援センター

1 2023年度 特記事項

2024年4月、こじか「子どもの家」は、開園20年目を迎えることになる。2004年に、知的障害児通園施設として開所、その後、福島市委託相談支援事業所や児童デイサービスを立ち上げ併設、2012年には児童発達支援センターに移行した。また2019年からは新型コロナウイルス感染症の対策に苦慮し、2020年度より園長が代わることになり4年が経過した。現時点におけるのもっとも大きな課題は、職員が定着せず、例年退職者が多いことである。

2024年度から、児童発達支援センターは地域における障害児支援の中核的な役割を担う機関であることが法的にも明確になった。

また、2024年度から本格的に「働き方改革」がスタートし、具体的に取り組む必要性がでてきているため、上記課題への対策は急務である。

上記課題の対策を講じるなかでも、『その子どもの成長に必要な支援の保障』、つまり職員の質の向上も重要となってくるため、「働き方改革」との兼ね合いを、どうとっていくのか考えなければいけない。

2023年度のこじか「子どもの家」の支援の現状

(1) 本人支援、家族支援

こじか「子どもの家」ホームページの2023年度の保護者等からの自己評価結果参照

(2) 移行支援

- ① 転園1名:こども発達支援センターへ移行
- ② 幼稚園・保育園の受け入れ側の整備に関しては、定期的研修や公立、認可、無認可などのキャリアパス研修などを通して伝えてきた。認定こども園や放課後等児童デイサービスの先生方が、初めて一日見学にくるなど、少しずつ広がりつつある。
- ③ 学校に関しては、県特別支援教育センターとつながりを持ち、就学サポートシートの改定に取り組む予定だったが、着手できなかった。

(3) 地域支援

2022年10月に、保護者の同意の下、居住する保健機関に情報提供を行ったが、2023年度は行わなかった。

在園2名に関して、地域の方の理解と協力が必要な家庭のため、保健機関に依頼し、地域につなげた。

(4) 行政等との連携

- ①保健機関 :保健師の方たちの一日見学や児童発達支援センターをご理解いただくための研修を行った

②障がい福祉課:係長、ケースワーカー、保健師の方たちが一日見学など、各関係機関の方たちに見学していただくなかで、児童発達支援事業所の内容や、支援が必要な子どもたちについて、理解をしていただく機会を設けることができた。

2 園児数(定員 40名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約者数	44	44	44	44	44	44	44	44	44	43	43	43	
延べ利用者数	694	641	857	734	623	818	776	765	655	655	708	615	8,541

3 職種別職員数(2024. 3. 31 現在)

職 種	園 長	管 理 責 任 者 児 童 発 達 支 援	理 学 療 法 士	作 業 療 法 士	臨 床 心 理 士	児 童 指 導 員	保 育 士	栄 養 士	調 理 補 助	用 務	事 務 員	運 転 士	合 計
人 数	1	1	2	1	1	1	8	1	2	2	3	1	24

*上記職員以外に嘱託医3名

4 年間行事実施内容

次頁のとおり

2023年度事業報告

相談支援事業 こじかキッズサポート

1 2023年度 特記事項

2022年度までは、100名弱の計画相談を、1名の相談支援専門員が担当してきたが、2023年度からは、2名体制で担当することになった。

地域や市内の関係機関を熟知している保健師という職種の方に入ってもらい、現在、相談支援事業所の立て直しに取り組んでもらっている。2名体制のなかで、今まで取り組むことができていなかった、情報収集及び主訴を捉えるための家庭訪問や、関係機関との情報共有が行われはじめてきているところであり、少しずつ本来の相談支援事業所の在り方の実現に近づいている。

2 福島市委託の相談支援事業 障害種別による相談利用者数

	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
2023年度	73	2	0	32	0	43	0	6

3 相談支援(特定・障害児相談支援) 児度発達支援利用計画作成の実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用計画数	22	12	2	9	7	9	16	4	9	8	7	7	112
モニタリング数	13	4	5	6	11	6	12	6	7	8	6	18	102

2023年度事業報告

こじか保育園

1 2023年度 特記事項

<こじか保育園6カ年戦略>

2023年度は、運営計画において、少子化時代を乗り越えるために、「選ばれる保育園」をめざし、こじか保育園6カ年計画に取り組んできた。

四つの戦略について、報告する。

- 1、園舎・園庭について
- 2、運営の見直し
- 3、人事の見直し
- 4、財政の見直し

1、園舎・園庭について

園庭が狭いので、園庭と隣接する土地を借りるなどして、増やすことを計画しているが、2023年度は、思うように進められなかった。

また、園庭に接する南側に宅地造成の計画がある。宅地造成する場所と下水道が離れているために、勾配をつける必要があるとのことで、園庭より80cmのところまで土盛りをする計画であるとのことである。それによって、保育園側は、日陰になったり、車の走行により雪水が飛んできたりすることが予測される。それについて、市、及び不動産業者と話し合いを進めてきた。結論には至っていない。

2、運営の見直し

保育園の職員が主体的に、自ら考え仕事をするという方向性は、かなり職員の中に浸透しつつある。主任保育士を中心に考え、園長と話し合いながら進めていくことができるようになってきている。

3、人事の見直し

職員の適性人数への調整ということが、大きな課題だったが、保育園は、以下のような問題を抱えている。

- ① 最低基準は決められているが、最低基準では、実際には運営できず、それ以上の人員配置が必要である。
- ② 保育士不足、人件費の問題等から、少ない正規職員・臨時職員＋沢山のパート職員でやりくりしているのが現状である。これからの保育園を考えると、このような状況が常態化していくものと考えられる。その時に、どう保育の質を担保するのか、大きな問題である。

4、財政の見直し

人事の見直しでも記した通り、最低基準を超えて保育士を雇用している現状では、人件費が圧迫されていくのは必然である。また、物価高、電気代等の光熱費の上昇があると、財政はますます圧迫されている。

できるだけ、今まである教材は、買わないなど、コスト削減に努めてきた。そのため、財政的には、概ね良好に推移してきた。

<インフルエンザ・COVID 19 対策>

2023年度は、5月にコロナが5類に分類され、徐々に普段通りの生活に戻ってきた。しかし、インフルエンザやコロナは、以前猛威を振るっており、感染する子ども、職員がいることから、感染対策を徹底しておこなってきた。

<今までの3つの方針>

保育園の社会的役割として、下記の事柄について引き続き取り組んだ。

- ①子育て支援
- ②教育の充実
- ③障害児への対応

2 園児数

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
2023.4.1 現在	11	18	18	18	18	18	101
2024.3.31 現在	18	18	18	18	18	18	108
定員	90名						

3 職種別職員数(2024.3.31 現在)

職種	園長	主任保育士	保育士	短時間保育士	短時間保育補助	看護師	栄養士	調理補助及び用務員	事務員	合計
人数	1	1	12	9	2	2	1	3	2	33

*上記職員以外に嘱託医2名

4 年間行事実施内容

次頁のとおり

2023年度事業報告

こじか子育て支援センター

1 2023年度 特記事項

新型コロナウイルス感染症の影響により利用ユーザー数が減少した。しかし、1月から仲よし広場の参加人数制限を5組から7組に引き上げたこと、感染者数の減少傾向も影響し、年度末には利用者数が増加した。

2 電話・面接による相談

- (1) 電話相談 5件
- (2) 面接相談 2件

3 子育てサークル事業

- (1) なかよし広場 登録者数 111名 延べ利用者数 1,222名
- (2) 子育てサロン 登録者数 46名 延べ利用者数 454名

4 発達が気になる子どもの相談と指導

にこにこサークル(小集団指導) 登録者数 6名 延べ利用者数 187名